

# 写真で振り返る

## 日出の風景と辻間楽

COLUMN 第2話  
- コラム -

### 八津島神社から分祀された 日出若宮八幡神社

#### 1 日出若宮八幡神社に奉納される辻間楽

日出若宮八幡神社(以下、若宮八幡社と略)は旧日出城下町の東端に鎮座しており、日出町の中では由緒のある神社として地元の人々からあつく敬われています。

若宮八幡では毎年10月15日に秋の大祭が行われており、そこでは辻間楽が奉納されています。現在、辻間楽は豊岡地区に鎮座する八津島神社に奉納されるものとなっていますが、江戸時代にはその舞台は若宮八幡社となっていたようです。

ここでは、辻間楽の奉納の舞台となった若宮八幡社の歴史について見ていきたいと思います。

#### 2 八津島神社から分祀した若宮八幡社

『大分県の地名』(平凡社、平成13(2001)年)によれば、若宮八幡社の創建については次の三つの説を挙げています。

##### ①「城内歴世記」(城内文書)の説

天徳3(959)年に八津島宮から応神天皇・を分祀し、翌4年に山城国(現在の京都府)に鎮座する石清水八幡宮から仲哀天皇・神功皇后など四柱の神々を勧請して6柱としたというものです。

##### ②「日出庄若宮八幡之由来」(若宮八幡社蔵)の説

天徳4年に石清水八幡宮から分霊を勧請したが、その船が日出と津島(現在の豊岡地区)の境の太田浜に着船しました。その後、浮津の北山に社殿を建立して日出庄の産土神となりました。そのため、若宮八幡社の大祭が行われる9月15日(旧暦)には太田浜に若宮八幡社の神輿の御旅所が設営されるというものです。

##### ③「豊後国志」の説

建久年間(1190～99)に大友能直が創建したというものです。

このように、若宮八幡の創建年に混乱が生じている背景について、「日出図跡考」によれば縁起などの古記録類が残ってなく伝承によって神社の歴史が語られてきたことにあるとしています。

「木下俊懋日記」などの記録から若宮八幡の大祭の記事をひもとくと、②の説にのっとる形で道楽などの神事が行われていたことが記されています。

また、辻間楽が若宮八幡に奉納される根拠として①の説に求めることもでき、天徳3年から4年における若宮八幡の創建は八津島神社と石清水八幡宮からの祭神の勧請によるものであったことが考えられます。

#### 3 日出藩による若宮八幡の復興と社格の向上

文禄3(1594)年、日出における太閤藏入地(豊臣秀吉の直轄地)の代官として毛利重政(兵橋)が赴任しました。キリシタンであった重政は若宮八幡社の社殿を破壊した上で神体を日出湊の海中に放棄しました。しかし、慶長6(1601)年に木下延俊が日出に入部すると、翌7年には社殿を元の土地に再建しています。それ以降、歴代藩主によって楼門や石鳥居、石燈籠などが寄進され、日出藩によるあつい庇護を受けるとともに、江戸時代を通じて藩と城を守る鎮守神としての社格を誇ることとなります。



辻間楽が奉納される若宮八幡社の境内



若宮八幡社での辻間楽奉納